

## 環境コンサルタント(陸域生態部門責任者)として担当した調査報告書

1975-1980年 (千代田デイムアンドムーア(株):千代田化工(株)と米国最大規模コンサルタントDames& Moore Co.Ltd.合併)

年度	クライアント	調査内容
1975-	千葉県企画庁	富津埋立地緑地計画
1975-	(株)北海道電力	森町地熱発電所立地に伴う動物調査 <sup>1)</sup>
1977		(哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類)
1976-	(株)北海道電力	留萌地域火力発電所立地検討のための生態調査
1978		(植生、動物、指標植物、社会環境調査)
1976-	(株)北海道電力	砂川・滝川地域火力発電所増設のための生態調査
1978		(植生、動物、葉中クロロフィル及びS含量、社会環境)
1976-	(株)北海道電力	スギ苗に対する低濃度SO <sub>2</sub> 接触実験
1979		調査(0.04ppmなど4種類の濃度、2年間連続接触)
1977-	(株)東京電力/(株)東北電力	下北半島の陸域動物文献調査・現地翻査計画策定
1978-	(株)東京電力	原子力発電所立地に伴う陸域動物実態調査 <sup>2)</sup>
1979	(株)東北電力	(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類)
1979-	(株)東京電力	発電所立地による動物への影響検討調査
1980	(株)東北電力	
1980-1981	運輸省第三港湾局	海岸域野鳥園実態調査・基本構想マニュアル作成
1980-1981	大阪市港湾局	大阪南港野鳥公園調査 <sup>3)</sup>

注:

- 1) 報告書は、地元の中学校・高等学校に配布
- 2) 調査中に採集した動物はすべて、青森市の郷土館に贈呈。地元のナチュラリスト・研究者50名以上が参加した調

注:数年前に財団法人自然環境研究センターの理事の方に伺いましたが、「この環境アセスメント報告書を当時の環境庁が評価するキャパシティが無く、そのためにセンター(当時は野生生物研究センター)を新設したのだ」と。私は20年近くこの事実を全く知りませんでした。

- 3) 既に開園されていて、多くの人々に楽しまれている。

この間に、1)ケニア、タンザニアの自然公園セレンゲティ自然公園内の野生動物研究所を訪問、2)米国本部のDames & Mooreを訪ね、SO<sub>2</sub>拡散シミュレーション、動植物の調査方法などを視察するとともに、サンフランシスコ郊外のガイサー地熱発電所地域も見学、3)英国の鳥類保護地区などを見学。

---